

# 授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の英語の未来へボタンをつなぐ

令和4年12月発行  
西部教育事務所

第1回の授業づくり講座に引き続き、今回も「読むこと」に焦点を当てて授業づくりを行いました。また、学習者用デジタル教科書の活用についても提案しています。教材研究会（9月16日（金））、授業研究会（10月19日（水））の様子を紹介します。



西部管内の  
講座関係HP

「読むこと」  
イ

令和4年9月16日（金）  
第2年 Unit5 Universal Design

協議の視点

- ①単元で身に付けさせたい資質・能力（「読むこと」イ）を育成するための単元構想になっているか
- ②本時の指導計画が、本文の概要をつかむための流れになっているか



今回の  
提案

### ◆学習者用デジタル教科書の使用

音読練習の際に個別で聞いて練習

### ◆教科書の活用

普段の授業に活かせるような、教科書を活用した「読むこと」イを育成するための授業

## 授業研究会に向けての改善ポイント

### 題材の一般化

日常生活の中でその題材が自然に使われるのはどんな場面だろうか？題材をオーセンティックにすることが大切である。また読む量を確保するには、教科書以外の読み物も扱う機会を設定すると良い。

### 読むための必然性

「何のために読むのか」目的・場面・状況を持った上で読む活動することで生徒は主体的に読み進めていく。英語での必然性のために新しいALTに相手意識を持たせてみるのも一つである。

### ゴールイメージの明確化

指導案は良い。ただゴールイメージがまだはつきりしていない。「読むこと」でのゴールイメージをもっと明確にしておくことで、授業イメージも具体化されていく。

### 生徒から引き出すキーワード

先生がキーワードを提示する代わりに、生徒から意図したキーワードを出させても良い。スキーマを活かして細かな手立てを入れるようにしてはどうか。

みんなの  
疑問

## 英語科の「振り返り」とは？

### ①言語面・内容面を振り返り、日本語で記述すること

「気づいたこと」や「できるようになったこと」、「次に活かしたいこと」など、言語面・内容面の両面について自分を内省すること（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p.81 参照）

### ②Writing や Speaking において、英語で表現すること

振り返りで書いたことなどが、実際に英語でできるかどうか表現すること

と書かれています。①で心の中の気持ちを言葉にすることで、生徒自身がしっかりと今日の学びを振り返ることが大切です。ただ、他教科で「適用問題を解く」ことによって実際にできるかどうかを見取るように、「実際に英語で表現できるかどうか」を見取ることはとても重要なことですね。毎時間①②の両方で振り返ることは時間的にも難しく現実的ではないため、単元の中で【いつ】【どこで】【どのように】英語で表現させる振り返りを行うのかを、あらかじめ単元計画の中に位置づけることが大切です。

## Good Question!

Q: 「構成を捉える」ことは概要を捉えることになりませんか？

A: Good question です！ただ残念ながら、なりません。概要を捉えるとは、特定の部分にとらわれることなく、大まかな内容を捉えることです（学習指導要領 p.21）。ただこのような質問は、向き合ってこそ出てくる質問ですね。ぜひ今後も「読むこと」にもチャレンジしていきましょう！



教材研究会

## すべての学校へのアドバイス

### CAN-DO の活用

CAN-DO に沿ったルーブリック等を生徒と共有することで、生徒が自分の最終ゴールを明確に持つことができる。そして生徒の達成度を教師が把握しておこう。

### 学習者用デジタル教科書

音読練習としての活用は個別で練習するための効果的な手段だが、ここは概要を捉える場面。読み取りの場面での効果的な活用について考えていこう。

### 生徒の頭をゆさぶる発問

教師の問いによって生徒が新たな考えを生み出したり、協働したり調べたりして、考えを導き出すような発問を心がけよう。

「『弘田先生のための教材研究会』ではなく、参加者全員が自分事として授業づくりをしていました。」

協議では、身に付けさせたい資質・能力の育成に向けて参加者が自分事として「授業をどうやっていくか」について真剣に話していました。意見が出し合える雰囲気がとても良かったです。教師は生徒の資質・能力を育成する大事な環境の一つなんですね。だから教師自身が自分を UPDATE することはとても重要なことなんです。

入之内 昌徳  
教科調査官



これらの他にも、参加者との協議や調査官の助言から、自分たちでは気づかなかった視点でのアドバイスをたくさんいただくことができました。今後また授業研究会に向けて英語科や他教科と共にブラッシュアップしていき、より良い授業を目指します！

協議の視点

- ①生徒が主体的に読みたくない姿が見られたか
- ②単元で身に付けさせたい資質・能力(「読むこと」イ)を育成するための本時の展開になっていたか(生徒の変容を見ながら)

「読むこと」  
イ

Redesignのポイント3点

- ①何のために読むのか、読むための目的・場面・状況を明確にした課題設定を行う。(「概要を捉える」にふさわしい活動を設定する)
  - ②学習者用デジタル教科書を音読場面で使うのではなく、思考場面で使用する。(下線を引いて共有する)
  - ③生徒が主体的に読みたくなるよう導入を工夫し、主となる言語活動を「リテリング」→「概要を捉えた上でタイトリングする」に変更する。
- 以上の3点を踏まえ、清水中学校英語科では教材研究会後すぐに学習指導案の再検討に取りかかりました。教科会で何度も再考し、他教科からの協力も得ながら、より良い授業を目指し取り組んできました。



授業者  
弘田 華愛 教諭

INPUT 活動でも  
目的・場面・状況を  
設定する



外国語科の目標には、柱書きに続いて、育成を目指す資質・能力の三つの柱が書かれてあります。その三つの柱のうち、(2)「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わる目標に着目して見てみましょう。

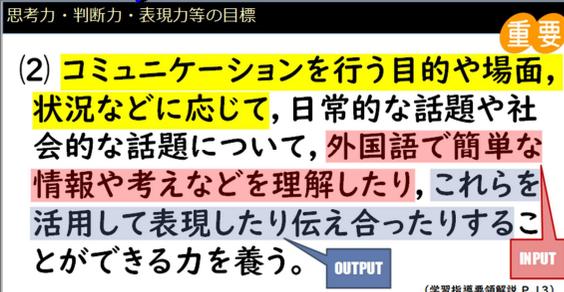
ここでは、「外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり」「これらを活用して表現したり伝え合ったり」という、INPUTとOUTPUTの両方について示されています。そのどちらにも「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」という部分が条件として係っています。

重要なのは、聞くことや読むことのINPUTの際にも、やはり目的・場面・状況の設定が必要不可欠ということです。



外国語科の目標  
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこととの言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目標とする。

思考力・判断力・表現力等の目標  
**重要**  
(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。



小・中・高の  
【目標】の系統性を見る

読むことの領域別目標

	小学校3・4年 外国語活動	小学校5・6年 外国語	中学校 外国語	高等学校 外国語
ア		ア 活字で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。	ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。	ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。
イ		イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。	イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。	イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。
ウ			ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。	

これは小・中・高の「読むこと」の目標を一覧にし、各校種の目標がどのようにつながっているのかを示したものです。本研究会には土佐清水市内の小学校及び高校の先生方も参加されていました。高校3年生の姿をゴールとし、「小・中・高の12年間で子供たちを育てていく」という視点に立ったとき、自分たちが何を担っているのかを把握することはとても重要です。

\*学習指導要領解説 p.136の【付録6】には、小・中の領域別目標が一覧になって示されています。

ICTの活用場面

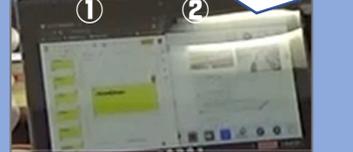
辞書やタブレットをいつも手元に置いておくことで、言いたいことや調べたいことをいつでも調べられる環境を作っています。



クラスメイトのアイデアをいつでも見られるようにしました。参考にすることで、苦手な生徒への手立てにもなりますね。



タブレットを2画面にして活用しています!右の画面を参考に、左の画面でタイトリングをしています。生徒の案です。Good idea!



参加者より

- ・何のためにその英文を読ませるのか、目的・場面・状況の設定の大切さを改めて感じました。生徒に何を本時や単元で解決しないといけないかが分かるように、課題を設定していきたいです。
- ・今回の「読む活動」で考えさせられたことを、再度自分なりに具体的な形にし、授業に取り入れていきたいと思っています。
- ・InputからOutputへのスムーズかつ効果的な活動を考えていきたいです。「この2つは1セットである」と学ばせてもらいました。
- ・何度も学指に戻る! 生徒のやる気を引き出すために導入を工夫したいです。

学習者用デジタル教科書の活用場面

簡単に書き込みや消去ができて便利!スクリーンショットして保存しておけば、いつでも誰でも見ることができます。



キーセンテンスに下線を引いています。後でどこに下線を引いたか共有し、お互いの考えを理由を含めて伝えました。どこに下線を引いたのかを教師がモニタリングすることで生徒の思考を把握することができます。

